

記憶に残る私の仕事,そしてあの街

ケニア医療訓練センター（ナイロビ ODA プロジェクト） 1998 ケニアの人々,そしてサバンナの動物達

伊藤誠三



計画は新築棟の他,既存校舎の修復,インフラ等構内整備等,限られた予算で多くの供与効果を得るという意味で注目され,更に,地方都市に点在する関連校への医療教材の配布も含み,業務内容は多岐に亘っていた。

1995年7月から調査期間を含め,3年余,設計と監理にナイロビに通った。課題の多い仕事ではあったが,それはさておき,個人的には,遠隔のアフリカの地で滞りながら人生経験として得るものが大きかった。パリ経由で往来したので,待機中にパリ市街も楽しめ,ナイロビ滞在中は休暇にしばしばサバンナに出かけ,多種の野生動物,鳥類を身近に見ることができた。更に地方校への教材配布のため,特に治安が悪い場所を除き,普通には行きそうもない地方まで出かけた。

業務そのものは面倒なこともあったが,それにも増して,道中,フラミンゴの群れる小さな湖,カバの群れる川,マサイの遊牧,はるばる一日がかりで徒歩で市に通う人々やその賑わい等々,かけがえのない見聞をすることができた。

もう一つはスワヒリ文化ともいえるべきものを知った事も大切だ。アルファベットで表記されるまで,文字を持たず,それは漢字輸入以前の日本と同じだが,日本同様,多くのことわざが伝承され,生活の知恵として生きているのが興味深い。

「山は出会うことがないけれど,人は出会うことができる」これは私の送別会で,校長の私への挨拶にあったものだが,実際,2年後,公用で来日し,再会することができた。



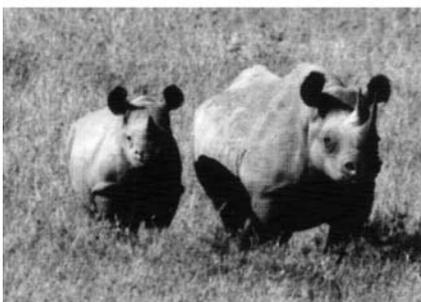
左:竣工式でモイ大統領
他主閣僚に施設を説明
右:路上の市



左:豪雨があり川が氾濫,
交通ストップ
右:マサイ族の一夫多妻
の家族 子供の他は妻



左:チータ家族
中:河馬家族
右:象の家族



左:夫唱婦隨の犀夫婦
右:縞馬の群れ